

2019年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

道府県・政令市名【北九州市】

学校名【北九州市立石峯中学校】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	石峯中学校 全学年152名 藤木小学校 5・6学年96名 教職員23名 保護者9名 計280名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (総合的な学習の時間) ② 行事名 (小中連携事業「オリンピック・パラリンピック教育講演会」)
4 目標 (ねらい)	おもてなし講演会 ～グローバルマナーとおもてなしの心を学ぼう～ ・国際的なマナーとおもてなしの心を知ることを通して、多様な文化や相手の立場になって考えることの大切さ、適切なふるまい方を学ぶ。 ・講話や体験を通して、コミュニケーション力を高め、多様な文化に積極的に関わろうとする態度を育む。
5 取組内容	<p><これまでの取組></p> <p>○各教科等における各学年の発達段階に応じた“おもてなし”や“ボランティア”精神の醸成、障害者や高齢者への理解、共生社会の形成、スポーツを楽しむ心の醸成などに関する指導を行っている。</p> <p>○昨年度は、視覚に障害をもった方たちの生活の苦勞や工夫を知り、アイマスクの使用等の体験やブラインドサッカーの体験を通じて、さまざまな障害をもった方たちと共生する社会について考えさせた。そのことにより、誰もが気持ちよく生きるために必要なことについて自分の考えをもち、実践していこうとする心情を養っている。</p> <p><今年度の取組></p> <p>○事前に、講師の筑波大学客員教授 江上いずみ氏の活動が掲載された新聞記事を用いて、講演（学習）内容について生徒に意識をもたせた。</p> <p>○全学年生徒と、藤木小学校5・6学年生徒、教職員、保護者が、筑波大学客員教授 江上いずみ氏からワークショップを交えた講話を聴講した。</p>



	<p>「ワークショップを交えた講話」</p> <p>○東京2020大会において、来日される諸外国の方々への適切な対応とは何か</p> <p>○おもてなしの意味、見返りを求めない対応とは何か</p> <p>○好感度を高めるおもてなしの心とは何か</p> <p>※第一印象を良いものとするためには、表情、態度、身だしなみ、言葉遣いが重要であること、特に言葉遣いについてはルールの重要性を再認識した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手を傷つけない言葉かけ ・お辞儀の仕方 ・分離礼 ・物の渡し方 ・ノックの仕方 ・握手の仕方 ・外国人を迎えるときの挨拶の仕方
<p>6 主な成果</p>	<p>○「表なし」とは、「表裏なし」というとらえから、「表裏のない本心で大切なお客様をお迎えする」という意味があること、また、「もて成し」という言葉に丁寧語の「お」を付けた「心を以って行為を成す」という意味や「待遇」「歓待」の意味があることなど、わかりやすく説明がなされた。</p> <p>○教師が飛び入りし、コミュニケーションのやり取りを実演する場面があったり、握手の仕方や分離礼の仕方について実際に行わせたりしながらの講話であったので、児童生徒は興味・関心を示しながら参加することができた。</p> <p>○事後学習として、生徒一人一人に講演会で学んだことを文章でまとめさせた。</p> <p>○自己中心的な見方にとらわれがちな子どもたちにとって、「相手に喜んでもらうためにはどうすればよいか？」ということについて考えることは、他者の視点から望ましいコミュニケーションの在り方について考える良い契機となった。</p> <p>○オリンピック・パラリンピックに関する知識を得て、それを契機に多様な文化と親しみ、相手の立場になって考えることができた。</p> <p>○好感度を求めるためのおもてなしの技術、アイコンタクトの重要性、分離礼、適切な言葉遣い等、児童生徒が改めて気付かされたことが多くあった。</p> <p>○生徒の振り返りの記述（一部抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピックの意義は“異文化を理解すること”も一理あると保健体育の授業で習いました。私は他国の文化を知ることだけだと思っていましたが、“交流”するためには日本の文化を知ること大切だということが学べました。 ・自分が日本の文化や言葉の意味について、よく知らなかったということを知り知らされました。また、一つ一つの行動には、どのような意味があるのか、どう動けば正しいのかということも知



	<p>ることができました。日本人として恥じないようにこれからも勉強したいです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを思う気持ちの大切さがわかりました。思いやりの中に、守るべきルールやマナー、身だしなみを大切にできる大人になりたい、そのために頑張りたいと思います。 ・これから障害のある方と出会ったら、心配するのではなく、自分ができることを探そうとも思いました。
7実践において工夫した点(事業の特色)	<p>○講演会での講師を招聘するに当たって、近隣の小学校と連携して計画を立てた。それにより、経費を抑えることができた。</p> <p>○オリ・パラ教育について、事前に保健体育の授業で学習した。</p>
8主な課題等	<p>○オリ・パラ教育を年間計画に位置付け、計画的に実践する。</p> <p>○様々な人と交流する機会を教育課程の中に位置付け、おもてなしの心をはじめ、体験活動等を通して多様性を育む。</p>
9来年度以降の実施予定	<p>今後もオリンピック、パラリンピック選手等を招き、子どもたちと交流、講演、スポーツ教室等を通して、オリンピック、パラリンピックについての関心を高めるとともに、一層理解を深めたい。</p> <p>また、限界に挑む姿や障害を克服した心情・態度を知り、生徒が自分自身を振り返る機会にしたい。具体的には、多様性を認め、一人一人が個性や能力を発揮し、活躍する機会が誰にでもあること、自分のために、他者のために、今すべきことは何かなどを考える機会としたい。</p> <p>そして、東京2020大会への関わり方について考える契機としていきたいと考える。</p>